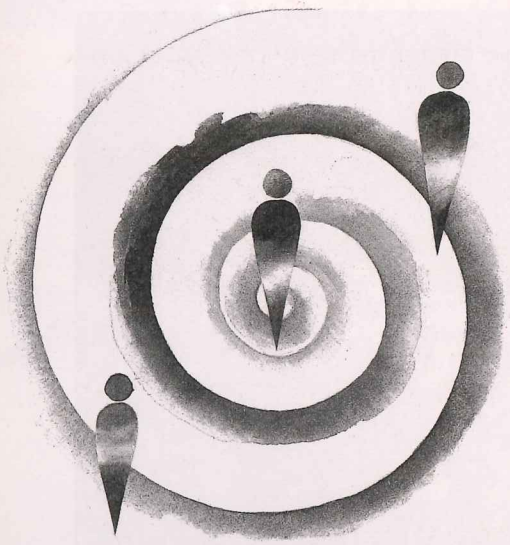
誌上
ケース検討会
53

要介護状態の老夫婦と精神疾患のある息子の3人家族をどう支えるか



全国各地で行われている事例検討会の模様を誌上で再現します。（検討会及び事例の内容は、プライバシー保護の観点から、全体の趣旨に差し支えない範囲で変更させていただきました）

●スーパーバイザー

野中　猛（日本福祉大学教授）

●事例提出者

Ｓさん（居宅介護支援事業所・保健師）

●提出理由

夫は自分自身の健康上の問題（喉頭がん・肝機能障害・虚血性心疾患・腰椎圧迫骨折）がありながら、妻（くも膜下出血による左上下肢完全麻痺）と息子（精神疾患）の面倒をみている。日常的に多量の飲酒もしており、今後の対応についてヒントをいただきたい。

●利用者の概要

クライアント：Ｍさん（男性・78歳・要介護１）

病歴：アルコール症（肝機能障害がある）、Ｃ型肝炎、虚血性心疾患（狭心症）、喉頭がん、腰椎圧迫骨折。

心身の状況：ＡＤＬは問題なし。痴呆なし。飲酒後に入浴し、湯船のなかで眠ってしまい、大騒ぎになることがある。

職歴：知人と紙問屋を営む。息子の病気のことと妻の発病により60歳で引退。

経済状況：支出内容には細かいが、最小限のサービスは希望。

近隣関係：近所づきあいは良好。現在の住居がMさんの生家。

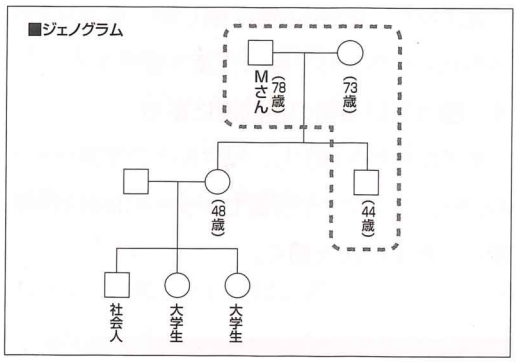
利用しているサービス：訪問介護（水・金）

●家族の状況

妻（73歳）：要介護４・痴呆なし。昭和61年、くも膜下出血により左上下肢完全麻痺。装具装着により歩行可。調理をしたいという希望があり、ヘルパーと一緒に味付けをするなど、できる範囲でやっている。しかし、右手で支えないと何もできず（下着の上げ下げにも苦労）、「私がいないほうがいい。死んでしまいたい」と訴え、リハビリ意欲がなくなることがある。息子については「息子の言うとおりにして」と言い、精神的対立を避ける。利用しているサービスは、訪問介護（月～金）、通所リハビリ（週２回）、福祉用具貸与（ベッド、車いす）。

長男（44歳）：25歳で精神疾患（統合失調症）発症。Ａ精神科病院通院中。自動車部品メーカー勤務。精神疾患に対する会社の理解はあるが、１年に数回２～３週間ずつ病欠する。家では両親とちょっとしたことで口論になり、大声で怒鳴り散らす。父親が病気なのに飲酒していること、母親が麻痺があるため転倒しないかなど、両親のことを気遣う気持ちも強い。

長女（48歳）：実家から車で30分のところに居住。夫と子ども３人の５人家族。両親の将来を心配している。弟とはこれまで何かとトラブルがあったようで、実家にはほとんど顔を出さない。子どもたちは、おじいさん・おばあさんの力になりたいと考えている。



●生活の希望・要望

Mさんは、検査や入院治療をすすめられているが、今は自宅にいたいと思っている。自分の希望は口にせず、「妻は将来特養に入れたい。妻の介護は息子には負担」と言っている。

●ケアプラン・援助目標

１．自分の健康管理ができる状況の確保

通院・検査入院・入院などに対し、その時本人が一番安心して治療できる状況づくり。夫の入院中、妻がどこで過ごすか（ショートステイまたは自宅でヘルパーの援助を受けるか）の検討を行う。

２．飲酒に対して

訪問時に飲酒の状況を把握する。「多い」とか「止めるように」と言っても効果は少ないと思われるため、「肝臓・心臓・喉頭がんはどうです

か」「自転車で買い物に行けますか」等、飲酒のために健康や生活に支障がないかを話題にする。

3．体力の消耗を少なくし、妻の介護に支障をきたさない

風呂掃除・体調不良時の買い物・洗濯などをヘルパーに依頼し、妻の介護を継続する。

4．困っている時の相談役になる

息子が会社を病欠し、Mさんとの喧嘩が絶えない時、ケアマネや保健センターの保健師が訪問し、息子の話を聞く。

●ケアマネとして困っていること

1．飲酒について

毎日2升程度飲んでいるとのこと。日中は意識もしっかりし、会話も問題ないが、夕方からはフラフラしている。

2．Mさん夫婦と息子の親子関係

Mさんと息子の考えが合わない時、息子を逆上させないためには、息子の意見を優先せざるを得ない。息子は、母親のことを心配するあまり、訪問に来たヘルパーが何か盗むと思い込んだ時期もある。

3．今後のMさんへの援助方針

息子さんの感情を安定させ、Mさんが息子さんのことで困っている時は電話してもらう。息子さんには、ケアマネとして考えていることをきちんと話し、感情的な怒りを両親にぶつけないように話す。

ケース検討会

野中　ありがとうございました。コンパクトに説明していただき、だいたいのケースの概要は見えたと思います。事例検討では、今のように事例説明の時間は10分ぐらいが適当です。そして、「見立て」と「手立て」の時間に分けて検討することが重要です。前半は参加者の価値観を入れずに、ケースの実態を明らかにするための情報を事例提出者から引き出します。そして、後半で具体的な手立てを考えていきます。

ケースの全体像をつかむ（見立て編）

野中　では、まずこのケースの全体像をつかむために、今のSさんの説明に加えて、どんな細部の情報があるとよいでしょうか。

家族の関係性と現在の生活状況について

発言　経済状況はわかりますか？

Sさん　どちらかというと、余裕はあるほうだと思います。年金のほか、貯蓄も結構あるようです。不動産もたぶんあると思います。

発言　長女一家に関する情報をもう少し教えてください。

Sさん　子どもが3人いて、1人は社会人、2人は学生です。下の2人のお子さんは、お盆や

正月はMさんのお宅に遊びに行くなど親しくしています。ただ、長女自身は実家には行かず、私に相談がある時も直接事務所に来ます。

発言　それはなぜですか？

Sさん　弟さんと会わないようにするためです。長女はお母さんは入所したほうがよいと考えていて、すでに2カ所ほど特別養護老人ホームへの入所申し込みをしているのです。しかし、弟さんは家でみたいと思っているので、お姉さんに対して怒りを抱いているのです。

野中　お母さん自身はどう考えているの？

Sさん　表面的には、「息子の言うとおりにします」とおっしゃっていますが、本当は精神障害のある息子さんのことが心配なんだと思います。息子さんが会社をクビにならず、勤め続けられることを一番に願っていると思います。

野中　なるほど、母心ですね。

発言　Mさんは入院したことはあるのですか？

Sさん　昨年、放射線治療を受けるために入院しました。

野中　その間、お母さんは？

Sさん　ショートステイに入ったのですが、予定より早く家に帰りました。

野中　というと？

Sさん　息子さんがショートステイ先とMさんの入院先に洗濯物を取りに行かなければいけないと思って、2日ほど続けて2カ所を回ったのですが、お手上げ状態になってしまったんです。「なんで僕がおふくろとおやじのところに行かなきゃいけないんだ。こんなことじゃ、仕事に行けない」と仕事を休んでしまったので、お母さんが「じゃあ、私が家に帰るわ」ということで、早く終了になりました。そして、急遽ヘルパーさんに入ってもらって、自宅で過ごしたことがありました。

野中　今のエピソードは、このご家庭の状況を象徴的に示していますね。複雑なケースは、全部を洗い出そうとすると時間がかかりますが、こういう特徴的なエピソードを見ていくと、基本的なパターンが浮かび上がってきます。

発言　息子さんは、家事をどのくらいやっているのですか。

Sさん　体調がよい時は、週末はお母さんの入浴介助をします。

発言　他の日の入浴はどのように？

Sさん　週に2回はデイケアで、あとの3日はヘルパーさんが入浴介助をしています。

発言　Mさんの入浴は？

Sさん　ADL的には問題はないので、ご自分で入浴されます。ただ、毎日飲んだ後で入浴するので、お風呂のなかで寝てしまい、時々大騒ぎになります。

野中　それはちょっと問題ですね。

発言　食事はどうしているのですか？

Sさん　平日の夕食はヘルパーさんがつくって

います。朝と昼は、ヘルパーさんが買ってきたものを使って、お母さんが準備します。パン食が中心で、本当に簡単なものですが。

発言　掃除や洗濯はどうしているのですか？

Sさん　Mさんがやっています。とても几帳面な方で、朝一番に洗濯しています。シーツなどもご自分で洗っています。

野中　掃除も？

Sさん　はい。庭掃除などもまめにしています。

野中　すごいね。見習わなくちゃ（笑）。

発言　お母さんの排泄は問題ないのですか？

Sさん　左側が完全に麻痺しているので、体調によって自分でできたりできなかったりします。できない時はMさんを呼んで、下着を上げるのを手伝ってもらっています。

M氏の体調、予後について

発言　Mさん自身の体調はどうなのですか？

Sさん　ADLそのものは問題ないのですが、やはりがんということもあり、体力が落ちているので、洗濯が終わるとそのまま横になったりはしています。

野中　肝機能のデータは聞いていますか？

Sさん　GOTもGTPも二桁です。γ－GTPは150くらいだそうです。

野中　毎日2升も飲んでですか？　それはドクターからの情報ですか？

Sさん　いえ、検査結果はなくしてしまったそうで、Mさんからの報告です。

野中　酒飲みからの報告は信用してはいけません（笑）。

Sさん　あまりウソは言わない方ですが……。

野中　そこは明確に分けたほうがいいですよ。「あなたのことは信じているけれども、酒を飲んでいるあなたは信じられない」と。

Sさん　わかりました。

発言　Mさんはいつから飲み始めたのですか？

Sさん　話を総合すると、かなり前からのようですが、はっきりとはわかりません。

発言　休肝日はあるのですか？

Sさん　ありません。

発言　だいたいの酒量はわかりますか？

Sさん　ご本人は毎日2升飲んでいるとおっしゃいますが、実際のところはわかりません。

野中　Mさんの家系は酒飲みの家系ですか？

Sさん　そうでもないようです。皆さん長命だったと聞いています。

野中　Mさんが何歳の時にご両親が亡くなっているか聞いていますか。

Sさん　そこまでは聞けていません。

野中　複雑な事例の場合、昔の話を聞いていくと現在の状況の背景が見えてくることがあります。老年期というのは人生の総決算ですから、ふつうに考えると少し奇異な行動でも、生活歴を聞くと納得できることがあります。すべてのケースで昔の話を聞かなければいけないということではありませんが、ちょっと困難な事例だ

なと思ったら、聞いてみるといいですよ。

Sさん　はい、わかりました。

発言　夫婦仲はどうだったのでしょう。

Sさん　べつだん悪くはなかったようです。

野中　そうですか？　アルコールのことがありますから、相当なことがあってもおかしくはないんですけどね。

発言　親戚やごきょうだいは、近くにいらっしゃるのですか？

Sさん　同じ市内に、Mさんの弟さんが一人いらっしゃいます。

野中　じゃあ、昔の話なんかは、その弟さんに聞くといいかもしれませんね。ご本人たちが言うのと、脇から聞くのとではまったく違っていることもありますから。

Sさん　なるほど。

発言　Mさんの予後については、何かお聞きになっていますか。

Sさん　具体的なデータや予後については、うかがっていません。

野中　その点は、ぜひ押さえたいですね。

Sさん　はい。

息子の状況、サポート体制について

発言　息子さんの発症原因は聞いていますか？

Sさん　会社に入って間もない頃に自動車事故に遭って、自分は悪くないのに、相手から一方的に悪者扱いされて、それがきっかけだったとおっしゃっていました。

野中　すぐに受診したのかな？

Sさん　はい、現在の主治医のところに行ったようです。

発言　調子が悪い時は、どんな状態になるのですか？

Sさん　例えば、わりと最近の出来事ですが、朝起きて腕時計が見つからなかったそうなんです。それを、「おやじが隠したに違いない」ということで、警察を呼んだことがあります。

野中　勘ぐりですね。警察まで呼ぶというのは、極端な防衛ですね。ところで、息子さんは障害年金はもらっていますか？

Sさん　いえ。手帳も持っていないので。

野中　手帳がなくても年金はもらえますよ。

Sさん　そうなんですか……。勉強不足でした。あとで詳しい話を教えてください。

発言　息子さんに対するサポート体制はどのようになっているのでしょうか。

Sさん　元気な時は、2週間に1回、単科の精神科の病院に通院しています。

野中　治療の基本方針は聞いていますか？

Sさん　まだ主治医にはお会いしたことがないので、聞けていません。

野中　医師以外のサポート体制はどうですか？

Sさん　保健センターの精神保健相談員がいます。実は、長く担当され、息子さんからも信頼されていた方がこの春に異動になってしまい、それからは、ちょっとコミュニケーションが希薄になっているようで、少し気になっています。前任者の時は、息子さんが自分から電話をかけたりしていたのですが……。

野中　前任者に引き続きかかわってもらうことはできないのですか？

Sさん　一度、上司の方にご相談したことはあるのですが、「今は別の仕事をしているので」と

断られてしまいました。

野中　なるほど。どう保健センターを動かすかですね。その点は、後で検討してみましょう。

アセスメント情報のまとめ

野中　このあたりで、ここまでの情報を簡単に整理してみましょう。地元出身のMさんは、もともと友人と商売をしていたけれども、息子さんや奥さんの病気のこともあり、60歳で引退。アルコールは、はっきりとはわからないけれども、かなり前から飲んでいる様子。現在、がんや腰痛などを抱えながらも、奥さんの介護をし、洗濯や掃除をし、息子のことも心配している。やはり、一家の大黒柱という自覚があるのでしょうね。お母さんは、左上下肢完全麻痺で、排泄や入浴など日常生活には介護を要する状態。女性らしく、調理についてはこだわりがあり、できる範囲でヘルパーさんと一緒に味付けなどを行っている。自分の身体のことについては悲観的になることもあるが、息子のことが心配で、息子が社会人としてやっていけることを願っている。息子は、25歳で統合失調症を発症。１年に何度か２～３週間単位で仕事を休む。母を何とか自宅でみたいと思っており、週末は入浴介助をしているが、時々パニックになってしまうことがある。姉には反感を抱いている――。こんな全体像が見えてきました。

具体的な対応策を考える（手立て編）

野中　では、こういう状況に置かれている一家に対して、どこから手を打っていきますか？

サービス利用について

発言　経済的にも問題はないようですし、限度額にも余裕があるようなので、もう少しサービスを増やしてMさんや息子さんの負担を減らしてはどうでしょう。

野中　その点は何か考えていますか？

Ｓさん　はい、Ｍさんの負担を減らすためにも、お母さんのデイを現在の週２回より多くしたいと思っています。

発言　Ｍさんにもデイに行っていただいて、気分転換を図るというのはどうでしょう。

野中　それもいいですね。おそらく、そういう話をもちかけても、「俺がここにいないとダメなんだ」という答えが返ってくる公算が高いとは思いますが、これは聞いてみなければわかりません。“マジカル・クエスチョン”といいますが、「もし、どんな希望でもかなうとしたら、何がしてみたいですか？」と聞いてみる。もしかすると、囲碁の教室に行きたいとか、イングリッシュをやってみたい（笑）という希望をもっているかもしれない。

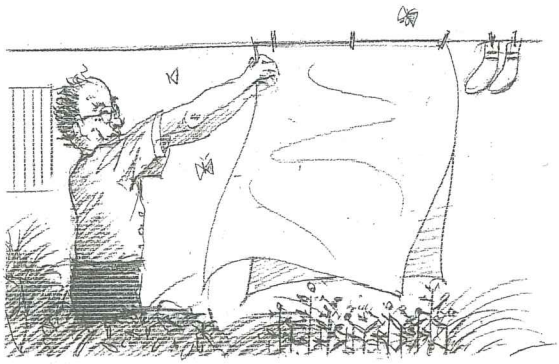
M氏へのケアについて

発言　Ｍさんのアルコールについて、何か手を打つ必要があるのではないかと思うのですが。

野中　誰が対応すればいいと思いますか？

発言　ケアマネさんと一緒にかかわっているヘルパーさんや看護師さん――。

野中　ちょっと弱いですね。やはり、プロに入ってもらわないと、素人では難しい問題です。



アルコール症対策の基本戦略を知っている人たちに、一緒にプランを立ててもらう必要があります。保健センターの精神保健相談員に相談に乗ってもらったほうがいいでしょう。

発言　お酒を飲んだ後の入浴というのが気になりました。ヘルパーさんの入っている時間帯に入浴してもらうことはできないのでしょうか。

野中　そのほうが安全ですからね。ご本人は拒否するかもしれませんが、援助者としては安全に配慮をして、そういう提案をすることが大事です。そして、リスクマネジメントの観点からも、その事実を記録しておくことが重要です。

Sさん　はい、わかりました。

発言　Mさん自身が、これからどういう生活を送りたいのかがみえないのが、とても気になったのですが。

野中　そこも大事な点ですね。一度、お酒の入っていない時に、きっちりと向き合ってMさんの本音を聞いてみてはどうですか。その一方で、予後についての情報もきちんと押さえておくことが大切です。

Sさん　わかりました。

長女一家へのアプローチ

発言　長女に状況を理解していただくことも大切ではないでしょうか。

野中　誰が、どう動きますか？

発言　う～ん……。

野中　たしかに、親しい家族に病気や障害のことを理解してもらうのは大切なことです。ただ、その説明は、プロからしてもらうほうがいいでしょう。ケアマネは、そのお膳立てをする。

発言　何でも自分でやらなくていいんですね。

野中　そうです。餅は餅屋に任せればいいんです。ただし、ここはプロに登場してもらったほうがいいという判断、そして説明の場をつくるセッティングまではケアマネの仕事です。

発言　わかりました。

野中　他にはいかがですか？

発言　お孫さんとは関係がよいようでしたので、何か役割を担ってもらうことはできないでしょうか。

野中　それもいいアイデアですね。世代を一つ飛び越えると、関係が和らぎますからね。古女房から言われるよりも、可愛いお孫さんから「おじいちゃん、お酒やめてちょうだい」と言われたほうが効き目があるでしょう。お年寄りにとって、孫の言葉というのは、思わぬ力を発揮することがあります。

息子へのサポート体制

発言　息子さんの状況がもう少し落ち着くようにしたいですね。

野中　Sさんは、息子については誰が中心になって支援していけばいいと考えていますか？

Sさん　息子さんに対する影響力が大きいMさんか、長女でしょうか。

野中　家族は難しいでしょうね。肉親の言うことはなかなか聞かないものです。私が女房に何を言っても聞いてもらえないのと同じで（笑）。やはり、専門家にコーディネートしてもらうほうがいい。保健センターの相談員に話をもっていって、障害年金の問題や暴力を起こした時の措置の話など、精神保健のプロ集団のほうで考えてもらったほうがいいでしょう。Mさんのアルコールの件もありますし、精神保健の相談員は重要なポジションにいますね。ただ、息子さんの問題とMさんの問題を一人の人が担当するのは大変なので、やはり異動になったベテランの方にもかかわってもらいたいところですね。

Sさん　異動された方にかかわってもらうには、どんな方法があるでしょうか。

野中　一つは、主治医から話をしてもらうという手があります。主治医が「この人でなければダメだ」と言えば、行政は動いてくれることが多いです。あるいは、所長のところに行って状況を話し、息子の統合失調症とMさんのアルコール症のことについて何らかの対応策を練ってくれと直談判するのも一つのやり方です。または、所長にも参加してもらった上で、保健センターで事例検討をするという方法もあるでしょう。一番有効なのは、主治医から話してもらうことかもしれません。

Sさん　なるほど。まだ、主治医の先生にはお会いしていないので、今後の参考にさせていただきます。

発言　息子さんは、このままずっと両親と生活していきたいのでしょうか――。

野中　そうですね。息子さんには、彼自身の人生を歩んでもらうことが大切ですね。こういう人は、ものすごく優しいんです。ふつうの人は、どこかで親のことを蹴っ飛ばして生きています。ある意味、それがふつうの健康な人生なのですが、この息子さんにはそれができない。だから、両親のことは専門家がここまでやりますから、あなたは自分の人生を歩んでもらって大丈夫ですよと、少しずつ理解してもらうことが大切ですね。ある意味では、専門家がだらしないから、障害をもっている息子に老いた両親の心配をさせているわけです。

他に気づいた点はありますか？　だいたい出尽くしましたかね。Sさん、いかがですか。

Sさん　自分ひとりでは見えなかった点を皆さんが出してくださったので、頭の中が整理された気がします。ありがとうございました。

野中　基本的には、息子さんの問題とMさんの問題を分離して、それぞれの専門家に対応を委ねるという方向でしょうね。早めに手を打ったほうがいいのは、息子さんの支援体制づくりとMさんのアルコール症対策だと思います。そうなると、保健センターの相談員が大事になりますので、まずは後任の相談員とじっくり話をして、その人がやれそうであればかかわってもらうし、ちょっと無理そうであれば、前任の方を引っ張り出すための方策を一緒に考えていくというところでしょうか。

とても勉強になるいい事例だったと思います。Sさんに御礼の拍手をしましょう。

会場　［拍手］

Sさん　どうもありがとうございました。